

国語科 学習指導案

茨木市立三島小学校

1. 日 時 令和6年度 9月13日(金) 第5時限(13:50~14:35)

2. 場 所 第4学年1組・2組・3組 各教室

3. 学 年・組 第4学年1組(31名)・2組(31名)・3組(31名)

4. 単 元 名 題名のもつ意味について考えよう(読むこと)

5. 教 材 名 「一つの花」(東京書籍)

6. 単元目標

- (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。
[知識及び技能](1)オ
- (2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。
[思考力、判断力、表現力]C(1)エ
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
[思考力、判断力、表現力等]C(1)オ
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

7. 言語活動 「一つの花」の題名のサブタイトルを考え、まとめの感想文に書き表そう

8. 教材観

「一つの花」は、家族の絆や平和の尊さが描かれた物語である。戦時中と、父と別れた10年後の時代が対比的に描かれており、「一つの花」という題名が平和の象徴として物語のテーマを表している。「一つだけ」という言葉が物語の中でどのような意味で使われているのかを考えたり、題名の意味と関連づけて考えたりすることを通して、厳しい時代を生きた人々の思いや願い、家族の絆を深く読み味わうことができる教材である。

9. 児童観

子どもたちは3年時3学期「モチモチの木」で人物像について読み取る活動を設定した。叙述をもとに、会話や行動などから登場人物の性格を読み取る学習を行った結果、子どもたちが初めて出会う

作品でも叙述からていねいに読み取り、人物像をとらえる姿があった。本単元に入る前に「わすれられないおくりもの」という絵本の読み聞かせを行った。これは動物の物語でみんなのためにいつも支えてくれた「アナグマ」が亡くなったあと、みんなが忘れずに思い出を語り合う場面で終わっていく。途中、登場人物が亡くなってもその後の話が続いていくお話は本単元の「一つの花」の設定に類似している。この絵本で「この題名の意味はなんだろう」と問いかけ、自由に感想をもつことができる体験を通して、本単元でも題名や作中に出てくる言葉に着目しながら、交流を通して考えを深めることをねらっていく。

10. 指導観

本単元では、「題名にサブタイトル」をつける言語活動を設定した。題名の意味を考える際、本文中の大事な言葉に着目し、考えたことを伝え合い、考えを深めていく。また、本教材は「三人称客観視点」の語りのため、語り手がどの登場人物の心情にも寄り添っていない。しかし「～でしょうか。」など心情を読み取るための手立てがいくつか文章に現れている。よって叙述とこの物語の時代背景をとらえつつ、登場人物の会話中に何度も出てくる「一つだけ」という言葉にこめられた思いを考えていきたい。また、まだ幼く戦中の状況を理解できないがらもむじゃきにふるまうゆみ子に対する父や母の心情をとらえながら題名の意味を考えられるようにしていく。

まず、第1時では、「出会いの感想文」として、この物語を「〇〇物語」と表現するならどんな言葉が入るだろうか問いかける。（感想文としているが①〇〇物語で表そう ②本文を読んでグッときたところはどこか ③みんなと読み深めたいところはどこか ④このお話の主題は の4点をワークシートに書き込む形式）これは「初発の感想から文章を書く」ことにむずかしさを感じ、読み取れなかった子どもたちが直感的に感じたものを短い言葉で表現することで、友だちの考えと比べることができる。実際に予想される多くのは「平和物語」「戦争物語」「最後に幸せになる物語」「悲しい物語」である。このような一見「対極」にある言葉をピックアップし、「なぜそう感じたのか」を交流することで、一読ではわからなかったことに気づき、同じ言葉でも捉え方が違う友だちの意見を知ることができる。短い言葉だからこそ、趣意説明が必要となり、おのずと「話したくなる」しかけにもなっている。また「出会いの感想文」を書くことで子どもたちのレディネスを把握するねらいもある。子どもたちがどう読んでいるのか（誤読もふくめ）どの場面に興味をもっているのか、物語のクライマックスはとらえているのか、どの人物に一番フォーカスしているのかなど、この分析は今後の授業展開にはなくてはならないものとなる。

第2時では「私の問い」を立てる時間とする。子どもたちが単元を通してつけていく力（つけたい力）をもとに、みずからの「問い」を立てていく。第1時の「出会いの感想文」の③「みんなと読み深めたいところはどこか」を一覧にし、子どもたちが仲間の問いも含めてもう一度考える活動を行う。友だちがどこを読みどころとしているのか、なぜその問いを選んだのかを話し合うだけでも作品の世界に入りこみ、もっと読み深めたいという意欲につながっていくことを期待する。

第3時では「物語の設定」を全体で確認する。「時・場所・人」を「物語全体」を通して確認すること

で、「物語の読みどころ」が生まれ、この物語全体の「構造と内容の把握」につながる。「読みどころ」とは「この作品で特に深めていくところ」であり、題名、キーワード、人物の相関、優れた情景描写、壮大な時間経過、などが考えられる。「一つの花」では「題名」「一つだけ」に注目しつつも物語の前半（戦時中）と後半（終戦から10年後）では何が変わったのかを読み取りながら「10年後が書かれていることで読み手にどんなメッセージを与えているのか」を考えていきたい。

第4・5時では「精査・解釈」を行う。前述したようにこの物語は「三人称客観視点」で進んでおり、人物の心情は直接的に書かれていない。第4時では戦争に行く父と残る母の思いを「対比」することで心情を理解できるようにする。第5時でこの物語の題名「一つの花」の意味を全体で共有し、読み深めたい。

第6時では「私の問い」を解決するための交流を行う。ここでは学級全体で同じ問い「10年後が描かれることで読み手にどんなメッセージを与えているのか」を読み深める。

第7時を本時とする。ここでは第2時で立てた「私の問い」を各自が持ち寄り、班での意見も参考にしながらさらに読み深める。

第8・9時ではそれまでに読み深めたことを各自整理し、「まとめの感想文」とする。書く内容はA「最初にもった感想（出会いの感想文をもとに） B「私の問い」の話し合ってたかったこと C「サブタイトル」このお話につけるなら（その理由も含め）」とする。

第10時はおたがいの「まとめの感想文」を読み合う交流の時間とする。最初の読みと学びのあとではどのように読みが変容したのか、友だちの考えを知ることによってさらに自分の読みにつなげていける時間とする。

11. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 (1)オ	①登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 C(1)エ ②文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 C(1)オ	・登場人物のさまざまな変化について、場面の移り変わりと結びつけながら粘り強く想像し、学習課題にそって感じたことや考えたことを友だちと交流しながら文章にまとめようとしている。

12. 単元の指導と評価計画(全11時間 本時7 /10)

時	学習内容	学習評価 (◎記録に残す評価 ○指導に生かす評価)			
		知技	思判表	主体	評価規準・評価方法等
1	●「作品」に出会う【構造と内容の把握】 ・あらすじ・登場人物・物語の世界観 ・ふしぎやなぜを交流 ●単元の見通しをもつ ・学習課題の確認(単元計画) ・活動モデル文の提示 ・言葉の学習(押さえておくべき言葉)	○	○1 ○2		・行動観察 ・ノート
2	●「私の問い」を立てる 【構造と内容の把握】 ・つきたい力にせまる問い ・題名、人物に関する問い			○	・行動観察 ・ノート
3 4 5	●それぞれの場面で登場人物のしたことを読み取る 【精査・解釈】 ・人物像・場の設定・題名 ・場面にはどんなことが書かれているのか ・前半場面と後半場面の違い		○1 ○2		
6	●「私の問い」を解決する 【考えの形成】 ・第6時ではクラス全体で1つの問いを解決する		◎1		登場人物の気持ちの変化や生活、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 【思・判・表①】 (行動観察・ノート)
7 本時	●「私の問い」を解決する 【考えの形成】 ・第7時では「私の問い」を解決する ・自分一人で解決→友だちと→クラス全体で ・最後は一人でまとめる			◎	人物のさまざまな変化について、場面の移り変わり結びつけながら粘り強く想像し、学習課題にそって感じたことや考えたことを友だちと交流しながら考えをまとめようとしているかの確認。

					(行動観察・ノート)
8 9	●まよめの感想文を書く 【考えの形成】 ・A・B・C についてまよめていく	◎	◎2		様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目し、書くことができているかの確認。 【知・技】 (行動観察・ノート・ICT) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっているかの確認。 【思・判・表】 (行動観察・ノート・ICT)
10	●お互い読みあって感想を述べあう 【共有】			◎	人物のさまざまな変化について、場面の移り変わりと結びつけながら粘り強く想像し、学習課題にそって感じたことや考えたことを友だちと交流しながら文章にまよめようとしているかの確認。 (行動観察・ノート)
11	●単元テスト ・書いた感想文は冊子としてクラスで交流 ・参観、懇談時に保護者に見てもらう				

つけたい力

物語を読んで、わかったことを整理しながら感想をもつことができるようになる力をつけます。

そのために

お話の前半と後半の場面を比べて「何が変化したのか・していないのか」を考えます。

言語活動

「一つの花」の題名のサブテーマを考え、感想文にまとめよう

13. 本時の展開

(1) 本時の目標

・登場人物のさまざまな変化について、場面の移り変わり結びつけながら粘り強く想像し、学習課題にそって感じたことや考えたことを友だちと交流しながら文章にまとめようとする。

(2) 本時の評価規準

・登場人物のさまざまな変化について、場面の移り変わり結びつけながら粘り強く想像し、学習課題にそって感じたことや考えたことを友だちと交流しながら文章にまとめようとしている。【主】

(3) 本時の判断基準

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
・前時までに読み取った学びをもとに、「私の問い」を感じたことや考えたことを友だちと交流しながら文章にまとめようとしている。【主】	・「私の問い」の解決が難しい児童に対しては、「その問いに関係する叙述はどこにあるのか」を教師とともに確認する。さらにその前後の文脈からヒントがないか支援する。また、友だちの意見の中で「なるほど」と共感できたものを自分の意見の参考とすることを促す。

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
5	① 前時までの学習をふりかえる。	・各自が国語の記録をもとにふりかえり、今日の学びを確認する。	
	今までの読みをいかして「わたしの問い」を解決しよう		
20	② 「つきたい力をつけるために」それをまとめた感想文に書くために「私の問い」を解決する。 ・各自が書いた「私の問い」に関する文章を一人を確認。 ・班で交流	・班のスタイル(3～4人)で話し合う。 ・「人(登場人物)・もの(キーアイテム・キーワード)・こと(起こったできごと)」の3つの観点で考える ・全体で交流することで、自分の考えをさらに固める。	◎主体的に学習に取り組む態度 (行動観察・ノート)
10	③ 各班からどのような話し合いになったのか全体で交流する。		
5	④ 自分が考えたことがさらに深まったり、広がったりしたところを追記する。		
5	④ 国語の記録を書く	・今日、話し合った内容、次回はどのように学ぶのか記録しておく。	

+題名のもつ意味について考えよう 「二つの花」

【つきたい力】

・文章を読んで、登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する力をつけます。

【そのために】

・登場人物の行動の理由、題名の意味を場面と場面をくらべて考えます。

【言語活動（げんごかつどう）】

・「二つの花」の題名にサブタイトルをつけて、まとめの感想文に書き表そう

①	／	○お話と出会う ・読む ・モデル文 ・出会いの感想文（○○物語）
②	／	○私の問いを立てる ・出会いの感想文から交流 ・学習の計画
③ ④ ⑤	／ ／ ／	○登場人物について ・それぞれの生き方 ○それぞれの場面でのようす ・山場
⑥ ⑦ ⑧		○私の問いを解決する ・クラスみんなで一つの問いを解決する ・各地 各班で「私の問い」を解決する
⑨ ⑩		○まとめの感想文 ・出会いの感想文 ・私の問いの解決 ・サブタイトル
⑪ ⑫	／	○交流 ○単元テスト

国語の記録に日々のふりかえり

一つの花

今西 祐行

四年組（

）

① お話の設定をたしかめ、物語の世界に入ろう。

◎時

◎場所

中心人物

◎人物

キーワード・キーアイテム

わき役

対人物

一つの花

今西 祐行

四年 組（

⑥ お父さん・お母さんの思いを読みとろう。

○登場人物の気持ち・思いを読み取ろう

ゆみ子

母

父

○山場】 場面】では、お父さんとお母さん どちらがうれしい？

お父さん

お母さん

○国語の記録↓①今日、解決した問い ②自分の問いに対する考え ③新たな問い

一つの花

今西 祐行

四年 組（

）

④め お父さんが一つの花をわたすとき、どんな願いをこめていたのだろう。

○国語の記録↓①今日、解決した問い ②自分の問いに対する考え ③新たな問い

一つの花

今西 祐行

四年 組（

）

⑥ 十年後の場面がないで、読み手にどんなことを伝えたいのか。

問い

自分なりの解決

一つの花

今西 祐行

四年 組（

）

⑥わたしの問いを解決しよう。

わたしの問い

自分なりの解決